

# 名大の時間

## 「光り続ける大学に」

退職し名寄を離れましたが、この度10年ぶりに再び名寄暮らしを始めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

私はオホーツク管内の斜里岳の麓で生まれ育ちました。社会人としての初任地は豪雪地帯の新潟県長岡市。その後北海道職員として主に児童相談所などの業務に携わり、岩見沢市

を振り出しに函館、帯広、北見、札幌市など道内の各地を転々としてきました。

その体験から、名寄は気候も四季のメリハリも鮮やかで、質の高い農産物を誇り、冬は長いとはいえ北海道の中で最も雪国らしい街だと、ことあるごとに周囲に吹聴しています。「雪質日本一」だけではなく、街全体をい

む冬景色は他の街ではみられない素敵ない景観です。退職後も

特命教授として年に1、2度の講義で名寄に来る機会を頂いたことは、私には

楽しみな時間でした。短大に勤務していた2010年に、名寄市立大学創立4周年・短期大学部創立50周年記念事業が執

り行われました。その節目に短期大学部長として関わり、大

学が名寄を中心に地域の努力で創設され引き継がれ、発展してきたことを再認識しました。

その記念事業の討論会で、設置者である加藤剛士市長が「人口が少ない地域

だからこそインパクトのある地域と一体となつた大学のまちづくりができる」と

発言されていたことが印象的でした。名寄市立大学は「小さくてもキラリと光る大学」をモットーに掲げています

はもとよりですが地域の皆様のご理解、ご支援なしには、光り続けていくことはできません。

名寄市がカレッジタウン(大学の町)として、大学が市民の皆さんや近郊の市町村から誇れる身近な存在としてあり、道

北ならではの豊かな自然と調和し地域社会の活性化に繋がるよう、そして「ケアの未来をひらく」専門職養成大学として、より一層発展できるように力を尽くしたいと思います。名寄市立大学学長



名寄市立大学学長  
家村昭矩